

## ■ 出演者

\*は賛助出演ならびに団友

### ■ コンサートマスター

小菅 宏造

### ■ 1st バイオリン

安藤 優  
加藤 由香里  
横田 幸恵

上野 圭子  
橋本 土郎  
折原 裕子\*

### ■ 2nd バイオリン

青木 由美子  
河村 美香  
須田 政志  
石津 忠\*

五十嵐 健彦  
斎藤 典子  
山田 美幸

### ■ ビオラ

澤村 昂志  
古海 法雲

清水 哉子  
中村 逸郎

### ■ チェロ

池田 なつき  
佐藤 充  
水澤 由紀

上野 敦子  
征木 文子  
中務 浩\*

### ■ コントラバス

伊藤 実沙樹  
渡辺 光

広瀬 吉成

### ■ フルート

小林 愛佳  
福田 幸久

齊藤 孝久

### ■ オーボエ

兼古 祐輔  
橋本 直子

羽賀 純子  
皆川 正弘

### ■ クラリネット

齊藤 直美  
渡辺 英雄

富田 洋加

### ■ ファゴット

荒川 裕紀

宮口 弘明

### ■ トランペット

神戸 正雄  
水澤 学

小林 美月  
三輪 まりな\*

### ■ ホルン

飯田 美由紀  
綿貫 英紀

須田 孝義  
福富 雅彦\*

### ■ トロンボーン

笠野 光雄  
松田 彰英

西山 瑤

### ■ チューバ

吉越 篤\*

### ■ パーカッション

稲田 善智  
今井 幸弘\*  
藤沢 紀章\*

稲田 由佳  
阿部 真代\*  
綿貫 佳子\*

団長 古海 法雲  
事務局長 茨木 真

## ■ 楽団について

1972年(昭和47年)に結成されました。当時の日本の高度経済成長に呼応するように、アマチュア音楽家の活動が全国的に活性化される流れのなか、上越においても市民オーケストラ結成の機運が高まり、地域の高校管弦楽団OBら有志が集って演奏会を開催して以来、年2回開催している定期演奏会や各方面からの依頼演奏会を通して皆様に親しまれてまいりました。

現在は指揮者に長谷川正規氏、コンサートマスターに三溝健一氏を迎えて充実した活動を展開しています。本団では一緒に活動していただける団員を募集しております。募集パート等の詳細についてはお問合せ下さい。素敵で愉快的仲間達と素晴らしい音楽を創りましょう。団員一同、心より歓迎いたします。

### ■ お問合せ先

Mail: mako2034@joetsu.ne.jp  
Tel: 090-1606-1254 (事務局長: 茨木)  
https://www.joetsuso.info/



## ■ 演奏会のご案内

### 高田城址公園オーレンプラザ クリスマス・フェスティバル

日時: 2021年12月19日(日) 14:00開演  
会場: 高田城址公園オーレンプラザ  
入場料: 未定

主催: 上越交響楽団 上越市民吹奏楽団  
上越市教育委員会

※オーレンプラザ協働育成事業認定団体の  
2団体によるクリスマスコンサートです。

### 第85回定期演奏会

日時: 2022年3月20日(日) 14:00開演  
会場: 上越文化会館大ホール  
入場料: 1,000円(高校生以下無料)

#### —プログラム—

スッペ: 喜歌劇「スペードの女王」序曲  
ロッシニ: 「セミラーミデ」序曲  
ブラームス: 交響曲第1番 ハ短調

主催: 上越交響楽団

※コロナ感染症拡大状況により公演が中止になる場合があります。



最近の練習風景

# JSO

Joetsu Symphony Orchestra

# 上越 交響楽団

## 第84回定期演奏会

指揮: 長谷川正規

2021年9月19日(日)14:00 開演

上越文化会館 大ホール

主催: 上越交響楽団

Webサイト <https://www.joetsuso.info/>  
Facebook/Instagram @joetsuso



後援: 上越市教育委員会、妙高市教育委員会

新型コロナウイルス感染予防対策として、ご協力をお願い致します。



※未就学児をお連れのお客様は、他のお客様のご迷惑にならないようにご配慮をお願いします。



# ごあいさつ

上越交響楽団 団長 古海法雲

本日は上越交響楽団の定期演奏会にお越しくささいまして、ありがとうございます。  
昨年3月8日に予定しておりました定期演奏会が、新型コロナの感染防止の為に中止になって以来、丸2年ぶりの定期演奏会です。

御存じのように、このようなイベントを行うためには大変厳しい注意を払わなくてはなりません。オケのメンバーはもとより、お客様にも大変迷惑をおかけします。オケの普段の練習も出来なくなり、じっと、我慢しました。そして練習できるようになった時は、みんな恐る恐る参加してきました。今でも、これでもかこれでもかとお互いに気を使って練習しています。そんな具合ですが、練習に出てくるのがうれしくて仕方がないのです。しかし、練習に出てこれない団員もたくさんいます。地域的なことや、勤め先で出来ないように言われます。その職場では仕方がない事です。全員揃わない、音が抜ける、マスクをしながらは苦しい。楽譜は自分一人のみでみるため弦楽器はページをめくるのに困る、大事な話すら中々できない、等々、絶対にクラスターを出してはいけません。そんな風にして、今日の演奏会に漕ぎつけたのは、そしてお客様にも来ていただいたのは本当に嬉しいことです。

本日は、楽器の音が抜けないように楽器編成は調えましたが、弦楽器の数が少ないのはどうかご理解くださいませ。力いっぱい演奏しますので、皆様どうか私達と共に楽しいひと時を過ごしてください。

# 指揮者

Hasegawa Masanori 長谷川正規

東京藝術大学音楽学部器楽科(チューバ専攻)を卒業。同大学大学院音楽研究科修士課程修了。学部在学中に安宅賞を受賞。ソリストとして、松尾葉子指揮藝大フィルハーモニア、故岩城宏之指揮オーケストラアンサンブル・金沢等と共演。チューバ奏者として管弦楽・吹奏楽・室内楽の領域で活動するほか、指揮の活動も盛んに行っており、上越交響楽団、上越市民吹奏楽団、新潟市北区フィルハーモニー管弦楽団の定期公演をはじめ、ミュージカル「春のホタル」、オペラ「ヘンゼルとグレーテル」「愛の妙薬」「売られた花嫁」等で指揮者を務める。これまでにチューバを稲川榮一氏に師事。現在、上越教育大学大学院学校教育研究科准教授。



※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため出演を見合わせます。

# 客演コンサートマスター

Samizo Ken-ichi 三溝健一

松本市出身。4歳よりヴァイオリンを始め、片岡世界・正岡紘子・山岡耕祐・天満敦子の各氏に師事、東京音楽大学にて井上將興氏にヴァイオリン及び室内楽を師事。また、肥沼きよ・丸山嘉夫・竹内邦光・松本紀久雄・汐澤安彦の各氏にピアノ・ソルフェージュ/音楽学/指揮法を師事。  
大学在学中より多分野にて演奏活動を開始。編曲も多数手掛けている。  
また、これまで各地の学生・市民オーケストラにて演奏指導と活動の発展に尽力、後進の育成にもあたる。  
近年、汐澤安彦指揮「日独友好演奏会(ベルリンフィルハーモニーホール)」 「Sio フィルハーモニックオーケストラ・ドリームコンサート(東京芸術劇場)」にてコンサートマスターをつとめる。  
足立シティオーケストラ・上越交響楽団・柏崎フィルハーモニー管弦楽団 / コンサートマスター(常任・客演)・トレーナー・副指揮者(足立)。音泉室内合奏団 / 音楽監督(ソロコンサートマスター)。  
池袋音楽学院・Gruppo Violini / 講師。Musica Rospo / 主幹。



# プログラム&曲目解説

## ■トーマ / 歌劇「レーモン」序曲

フランスの作曲家トーマはパリ音楽院に学び、カンタータ作品で作曲家の登竜門であるローマ賞を受賞してイタリアに留学しました。帰国後は代表作「ミニョン」をはじめとした舞台作品を次々に発表して活躍しました。後には数々の実績が認められ、母校パリ音楽院の院長を務めて後進の指導にあたりました。  
1851年に発表した歌劇「レーモン」は、鉄仮面伝説を基にしたロシエの台本による3幕劇です。少女ステルと恋

に落ちた農民レーモンは、国王ルイ14世の双子の弟であることが判明したため、国王の統治を邪魔しないように迫害されます。ステルの父親は残忍な軍人でしたが、改心して罪を償うために鉄仮面をかぶりレーモンの身代わりになったことで、レーモンとステルは逃げ延びることができた、という物語です。  
現在では歌劇の上演機会はありますが、序曲は傑出した音楽性から、しばしば演奏会で取り上げられます。

## ■マスネ / 組曲「アルザスの風景」

マスネもフランスの作曲家でパリ国立音楽学院に学び、ローマ賞を受賞した経緯があります。オペラ作品を得意としており、バレエ音楽、オラトリオ、カンタータや歌曲も200曲以上作曲しています。また、管弦楽作品にも力を注いでおり、その中核を成すのが7曲の「管弦楽組曲」です。今回取り上げる「アルザスの風景」は第7番組曲で1881年に作曲されました。当時マスネが普仏戦争に従軍した際に、フランス北東部のアルザスに駐留した経験や、小説家アルフォンス・ドーデの「月曜物語」からインスピレーションを得たことに由来しています。組曲は4曲から構成されています。

### 1. 日曜の朝

木管楽器により、村の日曜の朝の平和な気分が描かれています。讃美歌「目覚めよと呼ぶ声あり」が弦楽器に現れ、再び木管が登場し荘重な雰囲気の中で曲を終えます。

### 2. 酒場で

酒場で村人たちが陽気に歌い踊る様子です。ティンパニーを音頭取りに全楽器でワルツ主題が奏されます。中間部の狩のファンファーレとオーケストラとの掛け合いを経て、後半に再びワルツ主題が戻ってきます。

### 3. 菩提樹の下で

夕方6時の鐘が鳴り、恋人達が菩提樹の下で愛を囁き合います。チェロ(男性)とクラリネット(女性)の抒情的な二重奏が奏でられます。

### 4. 日曜の夕方

アルザスの民謡旋律によって活気に溢れる夕方の広場が描かれます。盛り上がり最高潮に達した時、小太鼓に導かれて「帰郷ラップ」が鳴り響きます。8時の鐘と共にラップは次第に小さくなり静寂が訪れます。突然2曲目のワルツが登場し、さらに冒頭のワルツも戻って、興奮の中に劇的に曲は終わります。

■ 休憩 ■

## ■ベートーヴェン / 交響曲第2番 二長調 作品36

1792年にボンからウィーンへ移住したベートーヴェンは創作の重要な転換期を迎え、ウィーンの音楽の伝統を意欲的に吸収しています。1800年に交響曲第1番を完成した翌年からは、従来の伝統にとられない新たな試みで作曲を始めています。その代表例がピアノソナタ第13番、第14番「月光」や第17番「テンペスト」です。これまでの均整の取れた様式から変革への大きな一歩を踏み出しており、交響曲第2番が作曲されたのもこの時期です。残念ながら創作意欲とは裏腹に、難聴の症状が悪化したことで、音楽家としての人生に強い危機感を持ち、ウィーン郊外のハイリゲンシュタットで2人の弟宛に「遺書」をしたための時期でもあります。そのため、この交響曲は死の絶望の克服と捉えられることもありますが、主調は明朗な二長調で、かつ、全楽章が長調で作曲され、「遺書」の意味するような絶望的な感情は微塵もありません。

1803年4月に自身の指揮によって初演されて、当時の音楽新聞ではこのように絶賛されています。「この交響曲こそ意欲的な作品であり、この世にはびこる数多くの希薄な作品が消え去っても、この作品は後世に残ることになるだろう。」

第1楽章 序奏:アダージョ・モルト 二長調 3/4拍子、  
主部:アレグロ・コン・ブリオ 4/4拍子

第2楽章 ラルゲット イ長調 3/8拍子

第3楽章 スケルツォ:アレグロ 二長調 3/4拍子

第4楽章 アレグロ・モルト 二長調 2/2拍子